

## 令和6年度 第2回 俱知安町自転車活用推進協議会 議事録

日時：令和6年12月20日(金) 14:00～15:45

場所：俱知安町役場 2階 会議室

### 1. 開会

(事務局)

- ・ 初参加の委員の紹介、配布資料の確認

### 2. 議事

#### (1) 委員意見照会結果について

(事務局)

- ・ 【資料1】をもとに、委員意見照会結果について説明
- ・ 質問なし

#### (2) ネットワーク計画に関するヒアリング結果について

(事務局)

- ・ 【資料2】をもとに、ネットワーク計画に関するヒアリング結果について説明

(会長)

- ・ 9月に3回に分けて各団体からご意見をいただいた中で、このような結果となった。  
お気づきの点・ご確認したい点があれば、ご発言いただきたい。

(委員(代理))

- ・ 旭ヶ丘公園の上の箇所が自転車のネットワークに入っていると思うが、この部分と街中が繋がっていないのは何故か。

(事務局)

- ・ おっしゃる通り、自転車ネットワーク計画は面的に整備するものであり、この箇所は本来繋がっているべきであるため、修正させていただく。

(委員)

- ・ 将来ネットワーク化する際に、危険と考えられる箇所を青塗しているだけで、【資料2】では、まだネットワークにはなっていないと思われる。
- ・

(事務局)

- ・ 【資料4】の26ページに、もう少し鮮明な図面を記載しているため、併せてご確認いただきたい。なお、こちらの図面についても先ほどご指摘いただいた通り、旭ヶ丘公園が繋がっていないため、修正させていただく。

(委員)

- ・ 倶知安駅の後ろに道が通っているが、新幹線が開通した後の道を表しているのか。

(事務局)

- ・ こちらについては、将来的に駅の下を通れるようになるという話がヒアリングで出たため、反映したものである。

(委員)

- ・ この辺りは将来的に立体駐車場になるのではないのか。

(会長)

- ・ 駅の西側は立体駐車場になり、東側は交通広場になる予定である。また、駅舎の下を将来的に自転車も通行できるようになると思われるため、線を引いている。

(委員)

- ・ 現在議論されている「旭ヶ丘のあり方」や「くとさんパークのあり方」、「かわまちづくり」等を加味すると、川沿いの道にも線を引いていただきたいと思っているが、構想段階のため組み込むことはできないのか。

(会長)

- ・ 倶登山川の整備の話は、ネットワーク計画に関するヒアリングの後にお聴きしたため、今回のネットワーク図には反映できていない。
- ・ 河川敷の自転車走行を可能にする整備については、町としても計画として問題ないと認識しているため、ネットワーク図に反映させていただく。

(委員)

- ・ 駅舎の下を通る道が、単に立体駐車場に行くためだけの道であれば繋がりが見えにくい。駅舎の下が通行可能になることで、駅が色々なアクティビティのゲートウェイとしての位置づけになるという考え方で線を引くことで、価値が高まると思う。

(会長)

- ・ 道道までの間は実線で良いが、その先は破線の方が良いかもしれない。その辺りも含めて再調整させていただく。

(委員)

- ・ 【資料4】の25ページには、自転車ネットワーク計画の対象エリアは「必ずしも明確にせず、対象とする市区町村全域や市街地エリア全体など大まかな設定でもよいものとする」と記載されている。そのため、エリアとして面的に考えるのか、路線同士を結ぶ形で考えるのかによって論議が変わってくる。

(事務局)

- ・ 北海道内では、例えば帯広市では【資料4】の26ページのようなネットワーク図になっている。
- ・ 先ほどご指摘のあった、25ページの「大まかな設定でもよい」という文言について、自転車ネットワーク計画全体の検討対象エリアの設定においては、例えば、「住宅街から学校まで」と「別の住宅街から駅まで」などで線を引いていき、それらを最終的に繋いでいくという考え方に基づいていると認識している。

(委員)

- ・ 例えば、私たちが普段趣味として自転車で走っているような、ひらふなども非常に多くの人が多く走っているが、その辺りは対象にならないのか。そう考えるとこの図面は小さすぎるのではないか。
- ・ 突然、自転車ネットワーク路線図と出てくるが、まずは、対象となるエリアを決めるとともに、線で結ぶのか大まかな設定とするのかなど、町としての軸を決めなければならないのではないか。

(会長)

- ・ 先日の団体ヒアリングでは、町内全域を対象に意見を出し合っていたいただいており、町としての計画の対象区域も町内全域となっている。

(事務局)

- ・ 見やすくした図は【資料4】の26ページのものであるが、町で設定させていただいたネットワーク計画の素案は【資料2】の最終ページとなっている。【資料2】と【資料4】で図面に相違があり、お詫び申し上げます。

(委員)

- ・ 「ネットワーク」という言葉がいきなり出てくるから皆、混乱するのだと思う。町としての考え方を初めに示す必要があると思う。

(委員)

- ・ 意味合いとしては町内全域だが、例えば駅前からひらふの道道343号線に抜けていく道や、先ほど指摘のあった旭ヶ丘など、優先づけしていく部分を決めていく方がスマートだと思う。
- ・ 道を決めるとなると、例えば倶知安西小学校の目の前の道を入れるが、隣の道は外すといったことになるが、通行する人にとっては、自転車の道だから通るというよりは、自分の生活圏だから通っている。
- ・ 倶知安町としては、このスキームを活用して、道を良くしようとしていると思うが、エリアとしての網掛けで良いのであれば、倶知安全域をエリアとして、そこから優先づけをしていく方が収まりは良いと思う。

(会長)

- ・ 町の中にある道路全てが対象という認識で良いと思う。その中で、当然危険な箇所があるため、どこを通れということではなく、ここを通る時はここが危ないという考え方になると思う。
- ・ 【資料2】には、「地元有識者へのヒアリング結果を全て反映し以下の路線を自転車ネットワーク路線の素案とする」とあり、これに従えば、ネットワークの素案はあくまでも町内全域と考えていただいて問題ない。

(委員)

- ・ ガイドラインに基づくと、最初に対象エリアを決めて、その中でネットワーク路線の設定として、シェアサイクルの路線や危険個所の路線というような階層がレイヤーとしてあるという考え方になっている。
- ・ 対象エリアは【資料2】の2ページにあるように倶知安町全域であって、その中で路線図という形で一本の路線で括ったために分かりづらくなっている。

- ・ 対象エリアはあくまでも倶知安町全域で、「ネットワーク路線図は危険個所などの各レイヤーを全部盛り込んだ図面である」という説明があり、各レイヤーの図面があれば分かりやすいと思う。「路線図」という名前が分かりづらくしているだけだと思う。

(委員)

- ・ 「エリア」の方が意味合い的には良いと思う。

(会長)

- ・ 「路線」という名称については特に意識していたわけではないが、確かに分かりづらくしていると思う。ご意見をいただいたように「エリア」といった表現の方が適切と考えられるため、その辺りも修正させていただく。

(委員)

- ・ 地元有識者へのヒアリングをされて、現状の危険個所が洗い出されたと思うが、今後倶知安町さんも色々な計画があり、実際に道道でも迂回路を作ったり、南一線跨線が撤去されたりする。このネットワーク計画は将来系で考えるものなのか、現状で考えるものなのか教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 自転車活用推進計画の中の自転車ネットワーク計画というのは、将来的にここまで整備していくという目標であるため、厳密には全ての道路をネットワークとしても良いが、その中で現状整備されているのがこの程度で、ここを今後整備しなければならぬということの一つの図面で表すものである。
- ・ あくまで皆様に聞き取りをさせていただいて、ここが問題だよねというものなので、基本的には町内の道路が全て塗られていて、【資料4】の26ページが点線であれば分かりやすかったと思う。
- ・ 将来的にここまで倶知安町として整備をしていくという中で、令和6年度現在ではここまでしかできていないということが一つの図面で表されていれば良いため、【資料4】の26ページに記載されている線が、皆様からのヒアリングで、通勤・通学、買い物などにおいて看板や矢羽根の整備が必要になると指摘いただいた箇所になるため、点線・破線と実線の分けをした上で、ご提示すべきだったと感じている。
- ・ 先ほどのご質問については、まさしく将来系で考えるものになる。厳密には他の市町村で全ての道に線を引いている市町村もあるが、そうすると分かりにくくなるため、主要の国道・道道と通学路になっている路線、加えてニセコのサイクルルートが基本になってくると思い、3回のヒアリングを実施させていただいたつもりではあった。説明が不足しており、お詫び申し上げます。

(委員)

- ・ 9月の団体ヒアリング前に、「自転車ネットワーク計画（路線図）について」という一枚ものの資料を頂戴しているが、こちらの資料はどなたが作成したものか。

(事務局)

- ・ 素材は事業協力者で作成、町が1枚に集約した資料である。

(委員)

- ・ そこに概要として、ネットワーク路線の目的や設定方法が記載されているが、こちらは、どなたがお考えになったものか。

(事務局)

- ・ こちらについては、「地方版自転車活用推進計画策定の手引き」に記載されているものであり、オリジナルではない。

(委員)

- ・ 承知した。こちらの概要説明においても、自転車ネットワーク計画は、「安全で快適な自転車利用環境の整備に向け、自転車におけるネットワークを計画的かつ継続的に創出するため、面的な自転車ネットワーク路線の選定およびその路線の整備形態等を示したもの」と記載されている。
- ・ これらを踏まえると、やはり線ではなく面で設定する方が目的にも適合しており、概要の内容にも合っていると思う。

(会長)

- ・ 皆様のご意見を踏まえて、線ではなく倶知安町全域の面であるということでご理解いただければと思う。
- ・ また、先ほどの委員のご意見については、この線が将来的に変わることもあるという意見で間違いはないか。

(委員)

- ・ その通りである。

(会長)

- ・ 線が変わることは当然あると思う。ヒアリングでは現在皆様が走行したり、見たりしている中で危険と思われる箇所ということで整理させていただいている。

- ・ 先ほど話題に上がった新幹線の下のように、将来のことが既に明確であることについては反映しているが、基本的には現在における危険箇所となっている。

(委員 (代理) )

- ・ 倶知安町全域をネットワークとして整理していくことについては、そうすべきだと思うが、優先的に整備する木の幹になる部分として、【資料2】の図面の赤い線があると思っていた。
- ・ そうではなくて、あくまでも危険と認識されている道なのであれば、全域を整備するのはもちろんだが、全域を一気に整備することは難しいと思うため、多くの方に利用されている、あるいは今後利用してほしいというような幹を決め、そこからの広がりを見せていくようにすることがガイドラインにも明記されている。最終的には全部良くなるためどこを使ってもらっても良いが、どういう順番で整備していくかを示す必要があると思う。

(委員)

- ・ 「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」の「優先計画策定エリアの抽出の考え方の一例」という図においては、対象エリアを全域としつつ、「自転車の利用の広がり踏まえて策定する優先的計画策定エリア」を赤丸にし、「基幹となるルートを中心として設定する優先的計画策定エリア」として「観光地と駅・商業施設を結ぶ路線」などを緑で表している。このような繋ぎとなる説明資料が一枚あれば良いと思う。

(委員)

- ・ 先日のヒアリングでは、通学、ロードバイク、買い物が多い道路などが挙がった。そのようなゾーニングを決めながら、明確にしていく方が良いと思う。
- ・ 対象となるものが違った中で、ガイドラインに3つともはまらない可能性もある。通勤・通学で使われる道の整理の仕方とロードバイクで使われる道の整理の仕方は違ってくる。そのため、ゾーニング分けをした中で次のステップに進む必要があると思う。

(会長)

- ・ それぞれのゾーンに分けることで、倶知安町にとっての主要な幹となるゾーンが分かり、意見の出た危険箇所はそこに入っているイメージになると思う。
- ・ 一度、事務局で整理させていただき、改めて皆様にご提示させていただく。

(委員)

- ・ 今後ゾーニングを考える上では、倶知安町自転車活用推進計画(案)の柱となっている「サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現」、「サイクルツーリ

ズム推進による観光地としての魅力向上」、「自転車事故のない安全で安心な社会の実現」などをベースに、「健康」・「スポーツ」、「サイクルツーリズム」、「通勤通学を含む日常利用」などの観点でレイヤー分けをすると分かりやすい形に収まると思う。

(会長)

- ・ YNCA さんが作っているサイクルルートは、恐らくサイクルツーリズムの部分にあたると思う。

(委員)

- ・ YNCA のルートは基本的に羊蹄一周など、ある程度山麓の広域のベースに則った上で、倶知安町内であるため、あくまで一部でしかない。
- ・ 例えば南3線はニセコクラシックでも使用しており、花園への通勤で若い人も多く利用している。YNCA のサイクルルートを意識しすぎず、倶知安町としてのネットワークを考える方が良いと思う。

(会長)

- ・ 今まで YNCA が整備してきたところを利用してもらいたいという思いが町としてもあるため、既存のサイクルルートは当然入ってくると思っている。その上で、自転車レースに使用しているルートなども踏まえたゾーニングを考えていきたいと思う。

(3) アンケート結果について

(事務局)

- ・ **【資料3】** をもとに、アンケート結果について説明

(会長)

- ・ アンケート結果についてご確認したい点があれば、ご発言いただきたい。

(委員)

- ・ 交通安全教育については、警察でも交通安全指導員と共に学校に赴いて1年生に対する教育などをおこなっているが、年1回程度である。
- ・ 私には小学校5、6年の子供がいるが、「学校でお巡りさんから話を聞きたいか、知っている先生などから話を聞きたいか」と聞くと、「知っている先生から聞いた方が分かりやすい」と言われた。
- ・ **【資料1】** の「方向性④ 自転車事故のない安全で安心な社会の実現」の(5)にも私の意見が記載されているが、小学校、中学校、高校の交通安全教育は非常に重要である。

これらの世代に対して交通安全教育を多く実施し、意識づけ、定着、浸透を図っていきたいと思っているため、学校関係者の方々も積極的に進めていただきたいと思う。

(委員 (学校教育課長))

- ・ 貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。学校側も授業数の関係があり、なかなか難しい部分もあると思うが、その辺りについても検討して参りたいと思う。

(会長)

- ・ 前向きに検討していただけるとのことなので、ぜひ警察にもそういった場面でご協力いただきたい。

(委員)

- ・ 先ほど別委員がおっしゃったことが、本計画の大きな柱の一つになっていると思っている。
- ・ ハードはやらないといけませんが一気にはできない。啓蒙活動のようなソフトはやろうと思えばいくらでもできる。この後に説明があると思うが、この点は計画に大きく載せる必要があると思う。
- ・ アンケート結果を見ても、「自転車に乗っていてヒヤリとした経験」として「車が急にでてきた」や「歩行者が急にでてきた」の割合が高く、「歩行中のヒヤリとした経験」では「自転車が突然出てきた」の割合が高くなっている。
- ・ これらは意識の問題であり、立場が変われば、子どもも大人も視点が変わる。それぞれの立場でしか見ていないが、体験や教育で学ばなければ相手の立場で考えることは難しい。アンケートでも教育の重要性が回答結果に出ているため、これを見逃してはいけないと思う。
- ・ 学校でやることももちろんだが、イベントと自転車教室を結び付けること、町と交通安全協会や推進委員会、協議委員会でタッグを組みながらやることや、今実施している「わくわくパーキング」に自転車の要素を取り入れながら楽しく体験してもらうことなど色々やり方はあると思う。

(委員)

- ・ 小学生が被害にあった自転車利用者交通事故が夏場に発生している。新幹線工事を行っている見通しの悪い交差点で発生し、車は40km/h程度で自転車の飛び出しによる出会い頭衝突であり、頭をフロントガラスにぶつけてフロントガラスは割れていた。児童は病院に搬送され、命に別条はなかったが骨折していた。
- ・ 児童に確認したところ、当時ヘルメットを着用していなかったようであった。交通安全協会の取組で新入学児童にヘルメットを贈呈していると思うが、もらって終わりではなくて、つけなければ意味がないため、交通安全教育をお願いしたい。

(会長)

- ・ 今後そういった内容も計画に入るべきであると感じた。この後、計画(案)を説明するが、不足している点などがあれば、ぜひご意見をいただき、より身近な計画にしていきたいと思う。

(4) 倶知安町自転車活用推進計画(案)について

(事務局)

- ・ 【資料4】をもとに、倶知安町自転車活用推進計画(案)について説明

(会長)

- ・ これまでの皆様のご意見、ヒアリング及びアンケート結果を踏まえた計画(案)をお示しさせていただいた。計画(案)について、ご意見やご質問があれば、ご発言いただきたい。

(委員)

- ・ 先ほど12時間自転車交通量のデータが古いという話や、今後モニタリング指標をどうするかという話が挙がっていたが、本計画が「倶知安町デジタル田園都市構想総合戦略」との関連もあることも踏まえると、小・中学生のタブレットに地図を配信して、自転車での通学ルートに線を引いてもらうことなどができれば良いと思う。
- ・ また、先ほど他委員から紹介があったサービスの活用や、以前開発局がレンタカーのデータから交通量マップを作成されていたが、レンタサイクルでもどのルートを通っているかが分かれば良いと思う。

(委員)

- ・ 以前、観光協会が通信事業者に協力してもらってスキー客の動態調査を実施したことがある。例えば、東山に泊まっているお客さんは東山で滑るのではなくひらふで滑ってまた戻るなどをしていた。そういったデータも活用して、自転車の動きを把握し、ゾーニングや重点箇所を検討する必要があると思う。
- ・ 今回の計画(案)はかなりふわっとしたものであり、倶知安町として何をしたいのかが見えないと感じた。

(会長)

- ・ 本計画は10年計画であり、10年の中で適宜見直しを図っていくものである。毎年、次の年にどういうことをやっていくかを検討する中で、予算のかかるものについては、早い段階で話し合いをして、要求していかなければならず、国や道などの他の機関に対して要望活動を行う必要も出てくる。

- ・ そのため、作って終わりではなくて、来年度以降も集まっていただきたいと思っている。議論をしながら、例えば更新に向けた調査を実施するということになれば、その予算を取って進めていくというような形になる。
- ・ この計画のまま10年間進んでいくのではなく、10年を目途に計画を作った中で、今足りないデータなどがあれば、予算取りをしながら更新していくことを考えている。

(委員)

- ・ 計画自体はもう少し肉付けしながら、タイムスケジュール的なものを入れて、今後何年で何をする予定なのかを記載した方が良い。
- ・ 他委員もおっしゃっていたが、立場上、教育はもっと組み込んでいただきたい。自転車安全利用五則やシェア・ザ・ロードなどを含めて情報発信しないといけないという書き方をすれば良い。
- ・ 来月パブリックコメントに出すのであれば、全てを組み込むことは難しいため、ロードマップのようなものを入れて、今後こういうことをするというのを記載した方が良いと思う。

(会長)

- ・ 今、委員がおっしゃっているのは、10年間の中で、より実効性の高い計画を作りあげるといふものであり、そのためには必要な調査も今後出てくるという考え方で間違いないか。

(委員)

- ・ その通りである。例えば、来年は「交通調査を実施する」、「ゾーニングを設定する」、「ハザードマップを設定する」などを目標に掲げ、その間に「自転車安全利用五則の情報発信をする」なども目標にすれば良いと思う。

(会長)

- ・ いきなり、これをやりますと言ったところで、どこやるかという根拠になるものが無い  
ため、優先順位や整備箇所の根拠づけのためにも調査などが必要になってくる。

(委員)

- ・ 10年計画を1年で作るのは無理があると思うため、まずは、計画を通すためにロード  
マップをつけるなどをするべきだと思う。
- ・ そして、何度も言うが、交通安全教育はもっと記載してほしい。

(委員)

- ・ 本計画は町の公式な資料として外部に出していくことになると思う。計画には様々な  
図や写真を使用しているが、権利関係が問題ないかを外部に出す前に再度確認いた  
だきたい。

(会長)

- ・ 承知した。事務局で改めて確認する。

(委員)

- ・ 団体ヒアリングの際にも話題に挙がった国道5号線の使い方について、関係委員に改  
めてご説明いただきたい。

(委員)

- ・ 「自転車通行可」の看板がある歩道の区間は、俱知安橋の手前のマックスバリュまで  
となっている。北上していくとメルヘン通りの付近までは標識があり、横に伸びる道  
にもあった。
- ・ 拡大ができるかどうかを札幌の交通規制課に確認したところ、「できない」という回  
答であった。

(委員)

- ・ 車道走行に子ども除外のルールはなかったか。

(委員)

- ・ 現在のルールでは、70歳以上と小学生は歩道を通行できることになっている。

(委員)

- ・ 以前、別の会議の中で、羊蹄山麓の7町村で一辺に自転車活用推進計画を作成するかどうかという話もあったが、他の町村の動きは如何か。

(会長)

- ・ 他の町村に確認はしていないが、計画を作るという話は聞いていない。今のところは、倶知安町が先行して作って行く形になると思う。ただ、どこかがやれば続いてくる可能性はあると思う。

(委員)

- ・ そのような話があれば管理者に話が来ると思うが、こちらでも話は聞いていない。

(代理(委員))

- ・ ロードマップはぜひ作っていただきたい。そうでなければ、計画の中に何が含まれていて、この先何を検討していくべきかが分からない。
- ・ 道路の整備効果をとらえた方が良いと思う。幹になる部分から整備を進めたとしても、意味があったのか聞かれることもあると思う。何かしらの方法で、整備の前と後で、利用が増えたことや、自転車が流れたことをカウントした方が良い。
- ・ 【資料4】の13ページに自転車の走行空間について記載されているが、基本形として、自転車と自動車と混在した『車道混在(矢羽根型路面標示)』を標準として整備を進めます」とされているが、完成形がこれにするのは違うと言う人が出てくると思う。ガイドラインでも本来であれば、交通状況を勘案して形態を決めましょうと紹介されているため、この点が少し気になった。
- ・ 街中では、車道混在にならざるを得ない箇所も多いと思うが、幹となる部分は、自転車走行を専用としたエリアにするなどの方法もあると思う。道を全て広くするのは無理だと思うが、できるところを幹にするという考え方もあると思う。その辺りを来年度以降検討していくと思うため、今の段階でこれを決めきる必要はないと感じた。

(会長)

- ・ これまで出た意見を踏まえると、今回の計画は具体的なものではなく、大まかなものになると思う。10年の中で、具体的な調査・計画・実行というようなロードマップの期間設定の中で進めていき、その中で状況の変化があれば見直しも必要になると思う。
- ・ それらを踏まえて一度修正した計画(案)を年明けに皆様にご提示し、ご意見を踏まえてパブリックコメントに移って参りたいと思う。

### 3. 今後のスケジュールについて

(事務局)

- ・ 【資料5】をもとに、今後のスケジュールについて説明

### 4. その他

(会長)

- ・ 今後、必要に応じて皆様にはメール等でご案内させていただく。
- ・ 最後に、ご意見・ご質問があれば、ご発言いただきたい。

(一同)

- ・ 質問なし

### 5. 閉会

(会長)

- ・ 以上をもって、令和6年度第2回倶知安町自転車活用推進協議会を終了させていただく。